

航空従事者学科試験問題

M2

資格	一等航空整備士（回転翼航空機） 一等航空運航整備士（回転翼航空機） 二等航空整備士（共通） 二等航空運航整備士（共通）	題数及び時間	20題 40分
科目	航空法規等 [科目コード04]	記号	CCCC041872

☆ 注 意 (1) 「航空従事者試験問題答案用紙」（マークシート）の所定の欄に「受験番号」、「受験番号のマーク」、「科目」、「科目コード」、「科目コードのマーク」、「資格」、「種類」、「氏名」及び「生年月日」を記入すること。

「受験番号」、「受験番号のマーク」、「科目コード」又は「科目コードのマーク」に誤りがあると、コンピュータによる採点処理が不可能となるので当該科目は不合格になります。

(2) 解答は「航空従事者試験問題答案用紙」（マークシート）に記入すること。

☆ 配 点 1問 5点

☆ 判定基準 合格は100点満点の70点以上とする。

- 問 1 航空法第1条（この法律の目的）で次のうち誤っているものはどれか。
- (1) 航空機及び航空機用機器の製造及び修理の方法を規定することによって、その生産技術の向上を図る。
 - (2) 航空機を運航して営む事業の適正かつ合理的な運営を確保して輸送の安全を確保するとともにその利用者の利便の増進を図る。
 - (3) 国際民間航空条約の規定並びに同条約の附属書として採択された標準、方式及び手続きに準拠する。
 - (4) 公共の福祉を増進する。

- 問 2 「航空機」について（ ）内にあてはまる語句の組み合わせとして次のうち正しいものはどれか。
【人が乗つて航空の用に供することができる飛行機、回転翼航空機、（ A ）
その他（ B ）で定める（ C ）をいう。】

	（ A ）	（ B ）	（ C ）
(1)	飛行船	政令	装置
(2)	滑空機、無人機	サーキュラー	装置
(3)	滑空機、飛行船	政令	機器
(4)	滑空機	告示	装置
(5)	飛行船	政令	機器

- 問 3 航空法で定義する「航空業務」に含まれていないものは次のうちどれか。
- (1) 航空機の型式の設計について行う型式証明検査
 - (2) 航空機に乗り組んで行うその運航
 - (3) 航空機に乗り組んで行う無線設備の操作
 - (4) 整備又は改造をした航空機について行う航空法第19条第二項に規定する確認

- 問 4 「国内定期航空運送事業」について次のうち正しいものはどれか。
- (1) 本邦内の2地点間に路線を定めて一定の時刻により航行する航空機により行う航空運送事業
 - (2) 本邦内の2地点間に路線を定めて一定の日時により所有する航空機を航行して行う航空運送事業
 - (3) 本邦内の各地間に路線を定めて一定の時刻により所有する航空機を航行して行う航空運送事業
 - (4) 本邦内の各地間に路線を定めて一定の日時により航行する航空機により行う航空運送事業

- 問 5 飛行規程の記載事項として次のうち正しいものはどれか。
- (1) 発動機の限界事項
 - (2) 発動機の騒音に関する事項
 - (3) 発動機の安全性に関する事項
 - (4) 発動機の排出物に関する事項

- 問 6 「作業の区分」の「修理」の項目を全て含むもので次のうち正しいものはどれか。
- (1) 一般的保守、軽微な修理、小修理
 - (2) 軽微な修理、小修理、大修理
 - (3) 一般的修理、小修理、大修理
 - (4) 小修理、大修理、小改造

問 7 「軽微な保守」の作業の内容に関する次の文章の（ ）内にあてはまる語句の組み合わせで正しいものはどれか。

【軽微な保守とは、簡単な（ A ）作業で緊度又は（ B ）及び複雑な結合作業を伴わない規格装備品又は部品の交換をいう。】

- | （ A ） | （ B ） |
|-----------|-------|
| (1) 修理 | 特殊な作業 |
| (2) 保守 | 締結 |
| (3) 間隙の調整 | 特殊な技量 |
| (4) 保守予防 | 間隙の調整 |

問 8 航空機の登録について次のうち誤っているものはどれか。

- (1) 国土交通大臣は申請者に航空機登録原簿を交付して登録を行う。
- (2) 航空機は登録を受けた時に日本の国籍を取得する。
- (3) 外国の国籍を有する航空機は登録することができない。
- (4) 日本の国籍を有しない者が所有する航空機は登録することができない。

問 9 耐空証明に関する記述で次のうち誤っているものはどれか。

- (1) 申請者に耐空証明書を交付することによって行う。
- (2) 登録されると国土交通大臣により発行される。
- (3) 航空機の用途及び運用限界を指定して行う。
- (4) 設計、製造過程及び現状について行う。

問 10 航空法第10条第4項において耐空証明を行う基準として次のうち正しいものはどれか。

- (1) 設計及び製造過程
- (2) 設計、製造過程及び現状
- (3) 設計、強度及び現状
- (4) 強度、構造及び性能並びに騒音及び発動機の排出物

問 11 国土交通省令で定める「安全性の確保のため重要な装備品」に該当しないものは次のうちどれか。

- (1) 滑油ポンプ
- (2) 真空ポンプ
- (3) フラップ
- (4) スポイラ

問 12 実地試験に使用される航空機の等級が陸上多発タービン機である場合、技能証明に付される等級限定として次のうち正しいものはどれか。

- (1) 陸上単発タービン機
- (2) 陸上単発及び水上単発タービン機
- (3) 陸上単発及び陸上多発タービン機
- (4) 陸上単発、陸上多発、水上単発及び水上多発タービン機

問 13 航空保安施設の組み合わせで次のうち正しいものはどれか。

- (1) NDB、ILS、航空灯火
- (2) VOR、タカン、航空通信施設
- (3) DME、ILS、レーダー施設
- (4) VOR、衛星航法補助施設、管制塔

- 問 14 航空運送事業の用に供する航空機に搭載が義務付けられている書類の組み合わせで次のうち正しいものはどれか。
- (1) 航空機登録証明書、運用限界等指定書、運航規程、航空機基準適合書
 - (2) 整備規程、運航規程、耐空証明書、搭載用航空日誌
 - (3) 航空機登録証明書、耐空証明書、運航規程、運用限界等指定書
 - (4) 型式証明書、耐空証明書、運用限界等指定書、搭載用航空日誌
- 問 15 飛行記録装置について次のうち正しいものはどれか。
- (1) 発動機の始動から停止までの間、常時作動させなければならない。
 - (2) 最大離陸重量15,000キログラム以上の航空機に限り装備しなければならない。
 - (3) 連続して記録することができ、かつ、記録したものを30分以上残しておくことができなくてはならない。
 - (4) 離陸に係る滑走を始めるときから着陸に係る滑走を終えるまでの間、常時作動させなければならない。
- 問 16 特定救急用具に指定されているもので次のうち誤っているものはどれか。
- (1) 非常信号灯
 - (2) 救急箱
 - (3) 救命胴衣
 - (4) 航空機用救命無線機
- 問 17 夜間に使用される飛行場で航空機を照明する施設がない場合の停留の方法について次のうち正しいものはどれか。
- (1) その航空機の衝突防止灯で表示しなければならない。
 - (2) その航空機の右舷灯、左舷灯及び尾灯で表示しなければならない。
 - (3) その航空機の右舷灯、左舷灯及び衝突防止灯で表示しなければならない。
 - (4) その航空機の右舷灯、左舷灯、尾灯及び衝突防止灯で表示しなければならない。
- 問 18 航空法施行規則第164条の15（出発前の確認）について次のうち正しいものはどれか。
- (1) 離陸重量、着陸重量、重心位置及び重量分布は整備士及び運航管理者が確認する。
 - (2) 当該航空機及びこれに装備すべきものの整備状況は整備士が確認する。
 - (3) 燃料及び滑油の搭載量及びその品質は整備士及び機長が確認する。
 - (4) 積載物の安全性は機長が確認する。
- 問 19 航空法第143条（耐空証明を受けない航空機の使用等の罪）に関する次の文章の（ ）にあてはまる語句の組み合わせとして次のうち正しいものはどれか。
- 【航空法第11条第1項又は第2項の規定に違反して、（ A ）を受けないで、又は耐空証明において指定された（ B ）若しくは（ C ）の範囲を超えて、当該航空機を（ D ）したとき】
- | | （ A ） | （ B ） | （ C ） | （ D ） |
|-----|-------|--------|--------|--------|
| (1) | 耐空証明 | 用途 | 運用限界 | 航空の用に供 |
| (2) | 型式証明 | 耐空類別 | 許容重量 | 改造 |
| (3) | 適合証明 | 有効期間 | 制限 | 運用 |
| (4) | 技能証明 | 航空機の型式 | 航空機の種類 | 整備 |
- 問 20 航空法第111条の4（安全上の支障を及ぼす事態の報告）の事態で次のうち正しいものはどれか。
- (1) 点検整備中に発見された航空機に装備された安全上重要なシステムが正常に機能しない事態
 - (2) エンジン試運転中の操作ミスにより運用限界を超過した事態
 - (3) 航行中に非常用の装置又は救急用具が正常に機能しない状態となった事態
 - (4) 航空保安施設の機能の障害が認められた事態